

連載

ホームページで情報発信

M
H
A
O
K
M
E
N
G
P
A
G
E



川添 歩 (かわぞえあゆむ)
アクセス株式会社 <http://www.axes.co.jp/>

第6回 グラフィックを作成しよう!

第4回ではWebページにグラフィックを配置する方法を紹介しましたが、今回はそのグラフィックを作成するための具体的な方法を説明します。

なるべくお金をかけずにグラフィックを作成するために、ここでは主にシェアウェアを使用します。

Windows とMacintosh それぞれについて、標準で付いているソフトや本誌付録のCD-ROM に収められているソフトを使って作る方法を説明し、その後両方のOS に共通して存在するグラフィックソフトの定番Photoshopでの注意点を述べます。

Windows95でGIFを作る

まず、Windows では標準で付いているグラフィックソフト「ペイント」で画像を作成します。このとき直接ペイントで画像を描くだけでなく、スキャナーで取り込んだり、Photo CDを使ったり、テレビやビデオから取り込んだりするのももちろんOKです。

作成する画像はフルカラーのものでかまいませんが、第4回でお話したとおり、GIFフォーマットでは256色までしか使えませんので、最終的には256色になることを覚えておいてください。したがって、「ペイント」で保存するときには256色で保存します。

保存した「ペイント」のファイルはBMPフォーマットですので、それをGIFにコンバートする必要があります。コンバートするには本誌のCD-ROMに収められている「GIX」を使います。

GIXを立ち上げ、先ほど保存したBMPファイルをファイルメニューから開きます。

GIFにするにはファイルメニューの「別名で保存」を選び、ファイルの種類からGIFを選んで保存するだけです。

GIXではこのほかに、インターレースGIFに

すること、背景を透明化することができるようになっています。どちらも変換メニューに入っています(図1)。インターレースGIFにするには変換メニューから「GIF インターレース」を選ぶと「ファイル名を付けて保存」の画面が出ますので、名前を付けて保存します。背景の透明化の場合には、変換メニューから「GIF 透明化」を選ぶと画像の上にカーソルが表示されますので、このカーソルで透明にしたい部分をクリックします。クリックしたところの色と同じ色の領域すべてが透明化して、ページに配置したときに背景が透けて見えるようになります。

また、GIX では粗い画像から細かい画像になっていくように表示するインターレースGIFに似たJPEGのフォーマットであるプログレッシブJPEGにも対応しており、JPEGで保存する場合には「JPEG スキャン選択」からプログレッシブJPEGに変換して保存することもできます。

MacintoshでGIFを作る

Macintoshの場合には標準的なファイルフォーマットはPICTです。PICTの画像を作ることのできるアプリケーションは山ほどあります。しかし、Performaシリーズ以外のMacintoshには標準で付属するグラフィックソフトはありません。

だからといってがっかりする必要はありません。本誌付録のCD-ROMに収められている「GraphicConverter」は、Windows付属の「ペイント」をはるかに超える機能を持ったソフトです。名前からすると単なるコンバーターようですが、画像を作成して編集する機能はひととおり揃えています。

GraphicConverterでは、PICTだけでなくBMPなど数多くのファイルを開くことができます。他のアプリケーションで作ったファイルをFileメニューから開くか、FileメニューのNewで新しいウィンドウを作って、新たに画像を作成します。保存するにはFileメニ



図1: GIXでGIFファイル作成
▶ 付録のCD-ROM ©: ¥WIN¥VIEWER¥GRAPHIC¥GIX
インターレースGIF、あるいは背景を透明化するには、変換メニューからそれぞれ選択する必要がある

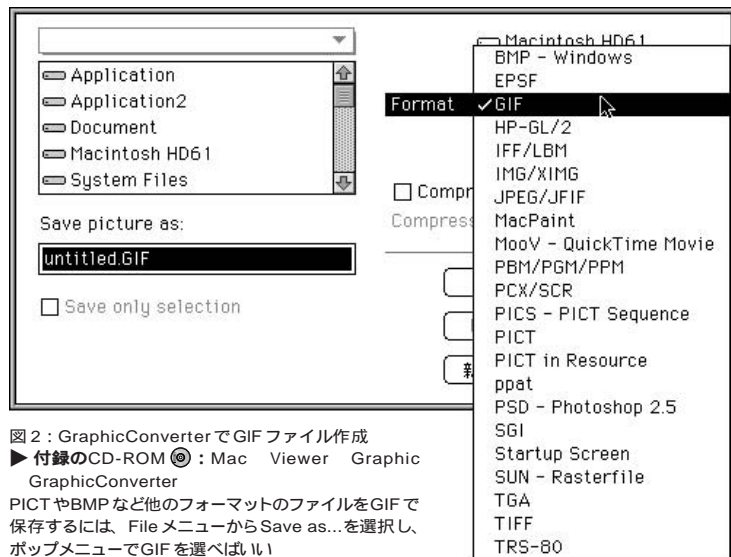


図2: GraphicConverterでGIFファイル作成
▶ 付録のCD-ROM ©: Mac Viewer Graphic Converter
PICTやBMPなど他のフォーマットのファイルをGIFで保存するには、FileメニューからSave as...を選択し、ポップメニューでGIFを選べばいい

ューからSave as...を選び、ダイアログボックスの右にあるポップアップメニューでGIFを選びます(図2)。GIFを選んだら、そのポップアップメニューの下にあるOptionsというボタンを押してください。インターレースGIFにしたい場合には、そこに出てきたダイアログボックスで、Row orderをInteracedにします。あとはファイル名をつけて保存するだけです。

フルカラーで画像を作成していた場合には、自動的に256色に変換されてGIFで保存されます。

画像の背景を透明化するには、保存する前にPictureメニューのColorsのサブメニューの一番下、Transparent GIF Colorを選びます。ここで出てくるダイアログボックスで、透明化する色を選ぶのですが、下にある

Transparent というチェックボックスをチェックしてから色を選ぶと、右には透明化した結果の画像が表示されますので、それを見ながらどの色を透明化するかを選択します(図3)。その後、GIFで保存すればOKです。

GIFの透明化にあたっての注意

GIF画像の一部を透明化する際に注意しなければならないのは、画像を作成する際に、画像の縁をなめらかに見せるためのアンチエイリアシングをかけている場合です。アンチエイリアシングは画像の縁の部分を背景の色に近い色で埋めることにより、ドットが目立たないようにしてなめらかな曲線に見えるようにする方法です。つまり、背景の色がアンチエイリアシングの際に影響するわけです。

GIF画像を透明化してページに置く際には、その背景の色を前もって考えた上でアンチエイリアシングをする必要があります。普通は白い背景の上でアンチエイリアシングした画

像を作成しますので、そうして作成したGIF画像を黒い背景のページに配置すると、画像の周りにうっすらと白い縁が付いてしまうこととなります。

Photoshopを使う

Photoshopでも保存する際のフォーマットとしてGIF(Compuserve GIF)を選ぶことで、GIFファイルを作成することができます。透明化やインターレースにすることはできませんが、サードパーティ製のプラグインを使うことで、Photoshopでもそれらの機能を使えるようになります。BoxTop Software ([URL http://www.aris.com/boxtop/](http://www.aris.com/boxtop/))のPhotoGIFを使えば、インターレースにもできますし、透明化はアルファチャンネルを使って指定することもできるようになります(図4)。

なお、PhotoshopでGIFに保存する際には、保存のメニューを選ぶ前に必ずモードメニューでインデックスカラーに変更しておく必

要があります(図5)。インデックスカラーにしておかないと、保存メニューのフォーマットでGIFを選ぶことができません。インデックスカラーにする際には、8ビット(以下)を選んで「使用中の色に合わせて割り付ける」にするとよいでしょう。ディザにするかしないかは画像によって違いますが、写真のように複雑な色がたくさん混ざり合っているような画像の場合にはディザに、単純な色彩のイラスト画像ではディザなしにするというのを目安にしてください。気になる方はディザあり/なしの両方のフォーマットで保存してみて再度開き、どのように画像が変化したか、サイズの違いはどうかを確かめてみてください。

シェアウェア

今回ご紹介したGIXもGraphicConverterもシェアウェアです。恒常的に使うのであれば、料金を払うようにしてください。Graphic Converterは、料金を払ってレジストレーションすると、複数のファイルのフォーマットや色数や大きさなどを一発で変換する機能などが使えるようになります。CompuServeのシェアウェア送金サービスが利用できます。

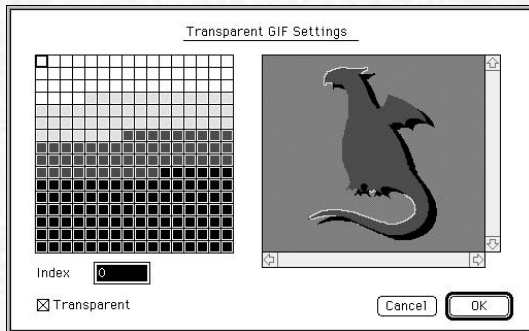


図3: Transparentの指定
Transparentのチェックボックスをチェックしてから、右に表示される画像を見ながら透明化する色を選ぶ

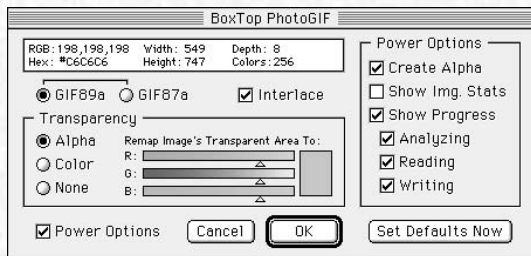


図4: PhotoshopでGIFファイル作成
BoxTop SoftwareのPhoto GIFを使えば、PhotoshopでもGIFファイルの透明化やインターレースが可能になる

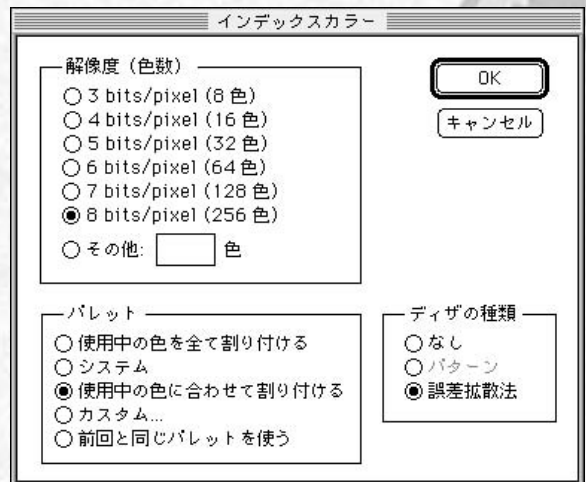
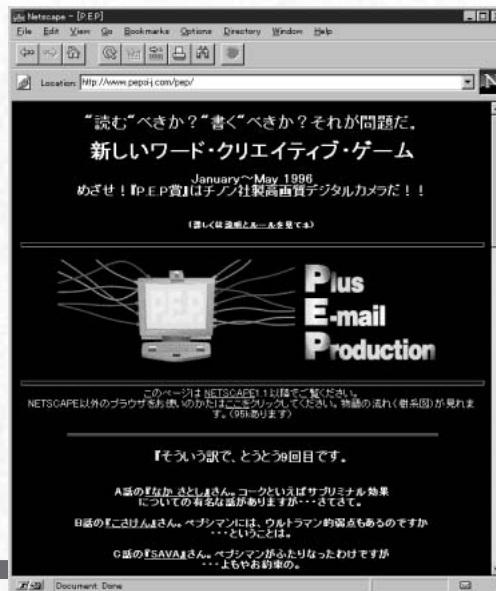


図5: インデックスカラーの指定
PhotoshopでGIFに保存するときには、前もってインデックスカラーに変更しておく必要がある

図6：徳島の「スーパーローカルタウンマガジン ANANA」のホームページ



図7：ワード・クリエイティブ・ゲームを実施している「PEPSI COLA JAPAN」のホームページ



ホームページを定期的に更新するためには?

誰かにせがされないとものごとを進められない、締め切りがないと文章が書けないというのは、なにも私だけではないと思う(と信じたい)。

世の中には根気のある人もいるもので、毎日欠かさずこつこつと日記や家計簿をつけることのできる人がいて、そういう人はホームページを作っても定期的にちゃんと更新していくだろうから、このコラムは読まなくてもいいだろう。

1人ではどうしても怠けてしまって、いや怠けているのではなく、他のさまざまな仕事や趣味や家事で忙しくて、ホームページの更新がつい後回しになってしまうという人。そういう人でも、ホームページを作ったからにはきっと時々更新したいと思っているだろうし、たくさん載せたいこともあるだろう。更新しなくてもいいし、内容は増やす必要は全然ないと思っている人は、このコラムは読まなくてもいいだろう。

やはり他人にせがされるのが一番である。しかし、職業編集者だって毎月一度、来ない原稿の催促メールを出すのは心労が絶えないものである(ごめんなさい)、まして誰かがボランティアでそんな心労を買って出るだろうか。

もちろん、食事や酒をおごるとかいった代

償を払って催促してもらおうという手もないではないが、それではあまりにもつまらなくはないか。

そこで、誰かと助け合ってホームページを作っていくのはどうだろうかと考えた。互いに、相手をせがず役目を負うのである。

内容の作り方はいろいろ考えられる。1つは、公開文通。交代で好きなことを書きながら、適度に相手に質問したり、答えたりを続けることで、1つの流れのあるページ群を作る。文通ではなく、あるテーマに沿った討論でもよいし、小説を作っていくのもよい。

ここで肝心なのは継続していくことなので、相手の番になったときにプレッシャーを与えなければならない。例えば自分の書いたページに[NEXT] ボタンをつけておいて、まだ作られていない相手のページのファイル名を勝手に決めてリンクを張ってしまうのだ。そうすると「お前が早く次を書かないから、[NEXT] ボタンを押した読者から、リンク先がないエラーが出ると文句が来たじゃないか」と責めることができる。リンク先がないのは気持ち悪いので、なかなかのプレッシャーになるのではないかと思う。

お互いのページが同じサイトにある必要はもちろんだ。協力する人がそれぞれ自分のサイトにページを作ればよい。その代わりに目

次や[NEXT] ボタンでちゃんとお互いのページに順番にアクセスできるようにしておく。

文通や討論のように、複数で1つのもの流れを作るのではなく、それぞれは別々のものを書きながら、1つにまとめて雑誌のようにすることで、互いに牽制しあうような仕組みにすることもできる。参加する人が書くテーマはなんでもよいが、その代わりに「毎週末に作成する」「第二日曜日に作成する」といった共通の締め切りを設け、雑誌としての目次ページをその日に必ず作成する。前のやり方と同様、目次作成時にまだできていない人のページにも、勝手にファイル名をつけてリンクを張ってしまうことは言うまでもない。

なお、これらの場合、「工事中」というページを作るのは禁じ手としておかなければならない。「工事中」となったまま1年も経っているページが世の中にはいくらでもある。「工事中」の札を出しておくことで安心してしまおうのだ。リンクが外れているという中途半端な状態こそがプレッシャーとなるのだ。だから、まだないファイルにリンクを張っておく。

ただしこの方法だと、常に行き先のないリンクが存在することになるので、読者に不親切である。そこで、締め切り日を設定し、行き先のないリンクを作るのはそれが過ぎてからというのがいいだろう。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp